

## 平成 8 年度 少年水産教室 開催 （大宜味小学校）

担当普及員 平手 康市

### 1. 課題

ヒメジャコ放流とサンゴ礁生物の観察

海に関わる（あえて漁業のみにこだわらず）職業に就くことを期待する。

### 2. 現状（概要等）

慢性的な後継者不足の原因には、いわゆる 3K 職場として敬遠されている事の他にも、海に対する親しみのなさが窺える。また、後継者としてだけではなく、海の環境保全を進める上でも、海に親しみを持つ人が多くなることが望ましい。

### 4. 協力者

大宜味小学校教員および P T A  
栽培漁業センター 大城主任研究員

### 3. 目的

ヒメジャコの放流作業を体験することにより、沖縄の海で実施されている栽培漁業を含めた資源管理型漁業の実態に触れる。また、身近な海に棲む生物がどのような役割を担っているのかを観察して、海をも含めた環境保全の啓蒙を行うとともに、海に関心を持ってもらい、将来、

### 5. 活動方法

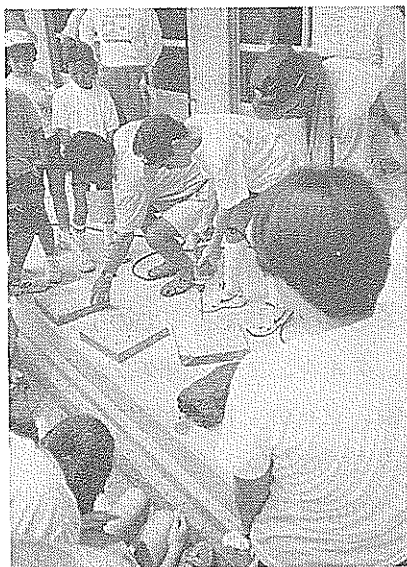
大宜味村大宜味小学校児童に対し、ヒメジャコの体験放流とサンゴ礁生物の観察を指導した。

### 6. 結果

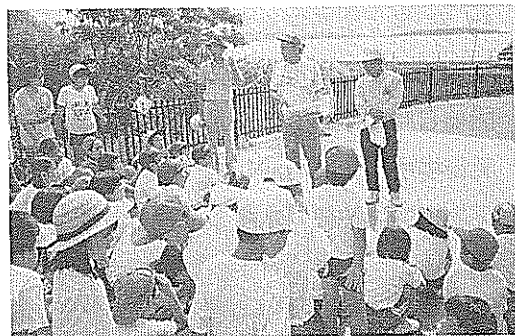
ヒメジャコ放流体験もサンゴ礁生物観察も、ともに子供たちは楽しく参加できた。しかし、単発的な実施では期待する効果は薄いのではないだろうか。こうした取り組みは、長い期間に定期的に行うことにより、将来、沖縄の海に貢献する人材の育成につながるのではないだろうか。

### 7. 次年度への展開

今後も積極的に、同様な体験会、観察会を定期的に実施して 1 人でも多くの目を海に向けさせることが重要である。



ヒメジャコ放流作業（陸上）



サンゴ礁生態系観察を終えた後の講話  
（大城主任研究員）